

- 目 的
- ・市民公益活動団体に活動紹介と活動資金づくりの場を提供する。
  - ・より多くの市民に市民公益活動への関心を深めてもらう機会を提供し、市民活動を始めるきっかけ作りの場とする。
  - ・参加公益活動団体がより活発に交流できる場とする。
  - ・社会貢献活動を行う企業の取り組みを紹介し、市民公益活動団体と企業、大学など地域協働のきっかけづくりの場を提供する。
  - ・被災地の復興支援を継続的に行う場とする。

開催日時 2024年 2月 10日（土）～ 11日（日）の2日間 10：00～15：00

場 所 横須賀市立市民活動サポートセンター及びYouTube（のたろんチャンネル）

主 催 のたろんフェア 2024 実行委員会、横須賀市立市民活動サポートセンター

- 運営体制
- 1) 実行委員会を構成し、企画運営を行う。  
実行委員の役割として…実行委員長、副実行委員長、記録、広報、会計監査、装飾など
  - 2) 事務局 市民活動サポートセンター 担当：早坂

- 参 加 者
- 1) 参加申込団体数 104 団体
  - 2) 2日間（10日・11日）の一般来場者数 2,140人（一昨年2日間で1,006人）
  - 3) PR イベント集客数 約80人
  - 4) YouTube「のたろんチャンネル」 5 団体 316 視聴（2月13日時点）
  - 5) 実行委員 10人、運営ボランティア 延べ9人

内 容 （コロナ5類移行を受け、参加団体数を増加した）

- 1) フリーマーケット、地域作業所販売、模擬店  
（館内 16 団体、館外 9 団体、ミニ展示 63 団体）  
4年ぶりの飲食販売も解禁とした。過去年より、飲食調理販売参加の団体数は減ってしまったが、飲食ブースがあると活気があると感じた。
- 2) 展示（活動紹介パネル展示 24 団体、ミニ展示 63 団体）  
活動紹介をパネルで展示し、ブース内でワークショップを行ったり、団体の活動を紹介した。ワークショップを行った団体からテーブルが狭いと意見があった。
- 4) 映像による活動紹介、ミニ体験コーナー（15 団体）  
実行委員会プログラムの「復興応援団」企画も行なった。去年は映像による紹介のみだったが、今年はミニ体験を復活させたこともあり参加団体のプログラム数が増えた。
- 5) 「のたろんチャンネル」 ※事前収録した動画を YouTube にて配信（5 団体）  
動画を団体から預かり事務局が投稿、YouTube で配信。
- 6) 募金活動（8 団体）  
いくつかのルールを決め募金活動を行った。1月1日に能登半島の震災があったので、募金活動を行う団体が増えた。
- 7) 署名活動（3 団体）  
いくつかのルールを決め署名活動を行った。
- 8) PR イベント 2月3日（土）リドル横須賀（4 団体）  
ダンスなど参加団体のパフォーマンスで「のたろんフェア」の PR を行った。
- 9) 「会場スタンプラリー」・「トンネルロボを探せ」  
スタンプラリーを復活させた。会場内で各団体の考えたクイズに答え、3色計6枚のシールを集め、ゴールで景品を貰う。  
「トンネルロボを探せ」は今年のポスターのキャラクターであるトンネルロボ14体に文

字を付け館内のあらゆる場所に貼った。それを探し出し、解答用紙をうめると一つの言葉になるのでそれを持って景品交換所で景品をもらうようにした。

子ども達が喜んで参加してくれた。

10) SDG s 企画「割りばしリサイクル」

割りばしを回収し紙の一部にリサイクルする企画。専用 BOX を作り割りばしと串を回収プログラムを行っている企業に送る。交流会まで継続中。

過去年、ごみの分別という課題もあったが今年は、この企画のためか分別ができていて割りばしと容器包装が仕分けられていたとサポセンのお掃除をお願いしている「うらら」さんからも報告をうけている。

